



発行
 特定非営利活動法人あいち・子どもNPOセンター
 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目14-12
 グランビル2B
 Tel&Fax: 052-232-3655

ACNC News Letter

講師紹介・出張講座のご案内

<主なテーマ>

- ・子ども・子育て支援(内容・方法、子育て新システムなど)
- ・子どもの権利(条例解釈、国内外の動向など)
- ・子どもの福祉(総合こども園、子ども虐待など)
- ・子どもと文化メディア・環境
- ・子どもと教育(いじめ問題、家庭教育を含む)
- ・子育て中の親への支援
- ・祖父母世代と孫育て
- ・子どもNPOづくりやその運営
- ・企業等の子ども・子育て応援プラン作成 など



◎各種シンポジウム、フォーラムなどのコーディネーター、アドバイザー派遣、その他ご相談に応じます。
 ◎多彩な講師陣を用意していますので、詳細は事務局までお問合せください。

困難を抱えた若者たちが 学び直しをするチャンスを取り戻すために！



愛知県教育委員会
生涯学習課長 富田 正美

愛知県では「あいちビジョン2020」を策定し、その重要政策課題の中で、教育・人づくりとして、若者の就業支援とともに、円滑な労働移動を実現するための就業支援や職業能力開発、さらには学びなおしの環境づくりを進めることや、社会とつながることが困難な子ども・若者の増加や生活困窮の拡大を防いでいくことが重要としております。

また、国の教育再生実行会議の第九次提言（平成28年5月20日）でも、高校中退者については、関係省庁が協力し、学校、教育委員会、地方公共団体の福祉・労働部局、ハローワーク、地域若者サポートステーション等が連携して、中退後も就労や再度の就学につなげる支援を行う体制の構築を促進、支援する。としております。

小学校や中学校時代に不登校やいじめで長期間学校に行けなくて学業が遅れてしまった人、勉強が嫌いだっただけで社会に出たら高校ぐらいいは出ていないと通用しないことを実感した人、外国にルーツを持つことから日本語の理解力が乏しい人・・・

県教育委員会では、さまざまな困難によって将来への希望を絶ってしまう、あきらめてしまう若者たちが生まれぬよう学習支援を柱とした学校教育からの切れ目のない就学や就労に向けた取組み「若者・外国人未来応援事業」を昨年の7月から全国に先駆けて始めることとしました。

県内3カ所（①愛知県生涯学習推進センター、②豊田市青少年センター、③豊橋市青少年センター）で、

学習の場を提供し、志を持った退職教員や大学生のボランティアなどの協力を得て、学習支援、日本語教育などを行っています。

ナナメの関係として子どもの学習のお手伝いをしたり、学習の相談にも乗ったりします。

どんな子どもたちも、希望をもって未来を描くことは許されるはずで。

環境の不利やつまずきが学力の遅れを生み、将来の経済的な格差を生み出す、、、そんな格差の再生産も断ち切りたいと思っています。

今後もニーズの把握とそれに合わせた対応を検証しながら、「愛知モデル」として普及・啓発を図っていきたく考えています。

入会のおさそい

特定非営利活動法人あいち・子どもNPOセンターの設立の趣旨にご理解、ご賛同の方のご入会をお待ちするとともに、一緒に活動できることを楽しみにしています。

特定非営利活動法人あいち・子どもNPOセンター
代表理事 大村 恵

正会員	個人	一口	年	6000円	(一口以上)
	学生(22歳以下)	一口	年	3000円	(一口以上)
	団体	一口	年	10000円	(一口以上)
賛助会員	個人	一口	年	6000円	(一口以上)



発行： 特定非営利活動法人あいち・子どもNPOセンター
 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目14-12 グランビル2B
 TEL&FAX (052)232-3655 e-mail aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp
 HP http://aichi-kodomo.com

CONTENTS

- P.1 困難を抱えた若者たちが学び直しをするチャンスを取り戻すために！
- P.2 第28回学習会の報告
- P.3 愛知県職員 2年目現場体験研修を終えて
- P.4 講師派遣のご案内

第28回学習会「子ども参画の学校建築」の報告

日時:平成30年2月12日(月・祝) 13:30~16:00
 場所:名古屋市市政資料館 集会室
 講師:鈴木 賢一(名古屋市立大学芸術工学部教授)
 長谷川 裕一(名古屋市教育委員会
 総務部学校整備課主査)



名古屋市立大学教授の鈴木賢一さんから、子どもが参加したワークショップを実施し、学校建築を行った事例を紹介していただき、子どもが参画することとは何かを考える学習会となりました。

- まずは学校という場所の持つ特殊性。
- ①国の定める教育制度が前提であること
 - ②義務教育課程の円滑な実施可能となること
 - ③多機能なスペースの集合
 - ④多数の子どもの生活の場
 - ⑤利用者関係者の入れ替わり(施設担当の異動、教員の異動、児童生徒の入れ替わり、保護者の入れ替わり)
 - ⑥地域施設としての役割(学校は、地域のシンボル、依り所)
- これらのことを踏まえた上での設計となっていきます。

利用者と行政・設計者の間に第三者の専門家が入ることにより効果的なワークショップが可能となり、両者の信頼関係、学校に対する愛着が増す、より良い学校建築のための道筋が見えてくるということです。4つの学校建築の事例を紹介して頂きました。

○旧下山村巴ヶ丘小学校(現豊田市)
 山里に点在する5つの小学校の統合です。低学年は「遊び場、遊具を考える」中学年は「好きな場所を作ろう」高学年は「校舎を考える」をテーマにワークショップを重ね、ふんだんに木を使った木造の校舎の完成した様子が紹介されました。

○犬山市羽黒小学校
 模型を使った「教室ごっこ遊び」のワークショップから、中央に教壇のある教室や、子どもたちだけで共有される大事な場所があったらいいなという提案から、階段下のスペースを有効利用したミーティングスペースや秘密のスペースが形作られた様子が紹介されました。

○豊田市浄水北小学校 浄水中学校
 学校と地域が協働ですすめる事例。小学校でのワークショップ、第1回「敷地探検ワークショップ」学校建設予定地を子どもたちが専門家と散策し、敷地の自然環

境を知る。第2回「間伐体験ワークショップ」専門家の指導の下、子どもたちと保護者、整備検討会のメンバーが間伐体験。中学生は中庭の計画を3回のワークショップからたてていきました。地域に開かれた学校になっていったことが語られました。

○豊田市立土橋小学校
 環境学習型エコスクールへの改修例です。使う人が感じる快適さとエコ度は相反するものがあります。子どもたちが環境学習を行い、子どもたちも参加し可能な限りの快適さを求めるエコ改修を行ったことで、子どもたち自身が改修後の学校案内(エコガイド)ができるまでになった様子がみられました。

これらの事例から、子どもたちの主体性に重きを置くことで、子どもたちの思いが入っていくプロセスを積み重ねていくことが大切と話されました。

名古屋市教育委員会の長谷川さんからは、「子ども参画の学校整備事例」としてお話を伺いました。

名古屋市では、築80年まで使用できる学校リフレッシュプランでリニューアル改修を行っているとのこと。北区東志賀小学校の改修事例を紹介して頂きました。特にトイレの改修では利用者としての子どもの参画に取り組み、ワークショップで意見を基に、暗い、汚い、臭いトイレを一新するリニューアルの実際を設計図、現場写真からみせていただきました。実際に使ってみると改善点も出てきており、今後すすめる名古屋市内の小学校の改修工事の参考になっていくことでしょう。

これからの学校建築が子どもの参画があたりまえになり、工事の現場も子どもたちに見せていくことで、学校に対する愛着がもてるようになるでしょう。その思いを入れ替わっていく子どもたちの中で、メンテナンスも含め受け継いでいってもらえたら嬉しい事ではないでしょうか。また、地域に開かれた場所として学校が機能していくことを願いたいと、講師と参加者の意見交換の中で強く感じました。

(文責 岩根)

愛知県職員 2年目現場体験研修を終えて

この事業は、愛知県が2007年から実施しているもので、2年目の県職員のみなさんがNPOでの現場体験を実施するものです。事業の開始当時から、当センターも受け入れに協力しており、今年は4人の研修生の受け入れを行いました。

研修生のみなさんにはあいち・子どもNPOセンターの仕事だけでなく、当センターに関係する団体を訪問してお手伝いをしてもらい、多様な子ども・子育て支援の現場を体験できるようにしています。普段の仕事では体験することのないことばかりで、新鮮な体験となっていると思います。彼らのこの経験が、NPOに対する正しい理解や今後のNPOと行政のよりよい協働へとつながることを期待しています。

以下、研修生に感想を書いていただきました。



研修では、子育て支援施設「八事おやこのスペース」や「おやこっこみなと陽まわり」で、スタッフ業務の体験をさせていただきました。また、イオングループの社会貢献活動である「黄色いレシートキャンペーン」のお手伝いをさせていただきました。

子育て支援施設のスタッフの方々が、幼い子を育てる保護者一人一人の話を耳を傾け、親身になって対応されていたことが印象に残っています。「この施設があって本当に良かった」という保護者の方の声も聴くことができ、NPOの活動が、子育て世代の親とその子どもにとって重要な役割を担っているということを実感することができました。

近々私も親になる予定であり、今度は利用者として、あいち・子どもNPOセンターや関係団体のお世話になりたいと強く感じています。

最後に、研修期間中は多くの方に助けていただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。(知多県民センター環境保全課 林 陽介)

我々の周りには普段は顕在化してこないだけで、子ども・子育ての関係だけでもあらゆる種類の支援を必要としている人々がいるのだということに気付かされました。

NPOはひとつの場所でひとつの取り組みを行っているわけではなく、実情に応じて様々な活動を作り出し、必要があれば外部と連携し、人と人とでつながりあって活動を進めているのだということが肌で分かりました。

「数は少ないけれど確実に支援が必要な人がいる」というような物事に細やかに対応することが大切なのだと思います。

私は行政の職員ですが、行政としては定めによってできること、できないことがあると感じることが多いです。

しかし端からできないことと切り捨ててしまうのではなく、まずは相談を持ち掛けてきた相手はどういう事情を持っているのかをよく聞き、内容によっては少しでも細やかに対応できないかを考えながらこれからの業務を行っていきたいと思います。

行政は制度の側から県民を支え、NPOは実際の取り組みで県民を支えるなど、それぞれの得意分野を活かしてお互いに協働していくことが、より県民のためになる活動につながるのだと感じました。(総務部市町村課 田村 彩音)

今回、NPO現場研修として事務所のお仕事や子育てを支援するセミナー、親子で参加するイベントなど、自分が普段は経験できないような現場に参加させていただきました。5日間全て違う現場に参加させていただきましたが、子育てというのは一筋縄ではいかず、親御さんは皆さん同じような悩みを多く抱えていることがわかりました。そういった方々にとって、子育てセミナーや一息つけるような憩いの場というのはとても心強く、力になっていると感じました。

私の職性質上、乳幼児や小学生と関わったりそのお母さんたちのお話をお聞きする機会というのは今後でも得られるかはわかりません。しかし、NPOの職員の方や研修で出会った方からお話していただいたことは忘れずにいたい。そして、皆さんが誰かの力になりたい、という気持ちで接していた姿を見て、私も一つひとつの業務に対して真摯に取り組み、県職員としてできることをしていきたいです。

貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。5日間本当に楽しく、いつもとは全く違う環境で仕事ができとてもいい経験になりました。本当にありがとうございました。

(名古屋北部県税事務所 課税第一課 大森 美奈)

私は研修で、様々なイベント・活動にスタッフとして参加させていただいたのですが、その全てで、非常に得がたい経験をすることができました。

子どもが外で遊ぶ機会と親同士の交流の場を提供する「わんぱく遊育塾」、子どもたちに楽しい時間を過ごしてもらう「ホッとアート」、放課後の小学生たちの遊び場「もりもりキッズ」、子どもたちだけで町を作り、自立心を養うイベント「こどものまち・デザイン ちくちく」、どれもたくさんの方々が参加されていました。

人それぞれの多様なニーズに対して、団体同士のつながりや専門の知識を生かし、きめ細やかなサポートから大規模なイベントまでを行っていることに感銘を受けるとともに、非常に大きな意義を感じました。こうした活動を、行政は今まで以上にサポートしていくべきだと考えます。

最後に、研修でお世話になった皆さまに、この場を借りて御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。(名古屋南部県税事務所 高辻間税課 倉内 悠人)